

研究の概要

(1) 研究主題と副題

主体的に学び合う子の育成

— 根拠・理由を明確にして伝え合う授業づくり —

(2) 研究主題設定の理由

新学習指導要領では「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を柱とした資質・能力の育成を目指している。そのためには、「主体的」「対話的で深い学び」が実現されなければならない。

本校では、学校教育目標「知徳体の調和のとれた品性ある子の育成」を受け、①進んで伝え合う子、②思いやりを形で表す子、③しなやかでたくましい子の育成に取り組んでいく。本校の子供たちは、明るく素直に活動し、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。しかし、受動的な面が見られ、自分の考えがもてない子がいるのも現状である。また、考えがもてていても、それを表現するのが苦手だったり、相手に伝えたりすることに抵抗がある子がいる。聴く力においても、自分と友達の考えを比べたり関係づけたりしながら聴く意識がまだ不十分である。

このような実態から、子供たち自身から「やってみたい！考えてみたい！」という意欲をもち、課題を最後までやり遂げる姿を目指し、研究主題を「主体的に学び合う子の育成」とする。

「主体的に学び合う子」を育成するには、子供たちが「わかった！できた！」と実感することが不可欠である。子供たち自身に学びを実感させるためには、まず子供たち自身が課題解決に向けて自分の考えを持ち、根拠・理由を明確にして伝え合う力が必要であると考え。そこで副題は「根拠・理由を明確にして伝え合う授業づくり」として手立てを工夫していくこととする。

研究の重点①を「一人ひとりに考えをもたせるための手立て」とし、どの子も考えをもつことができるような手立てを研究していく。また、考えのもたせ方についても、学習課題や既習事項や生活経験などと結びつけて考え、根拠・理由を明確にして考えがもてるような手立てを工夫していきたい。重点②は「伝え合わせるための手立て」とする。交流するとき、話し手は根拠・理由を明確にして、相手にわかりやすく伝えることを意識させる。聴き手は、自分と友達の考えを比べながら聴くことを意識させる。子供たちが考えを伝え合い、満足感や充実感を味わうことで、次の学びへの意欲をもつことにもつながると考える。この二つの手立てを工夫し研究を進め、自分の考えを伝え合う中で、新たな気づきや変容、深まりを実感できるようにし主体的に学び合う姿を目指していきたい。

(3) 研究構想図

① 学校教育目標

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成

～笑顔あふれる学校～

② 研究主題

主体的に学び合う子の育成

—根拠・理由を明確にして伝え合う子の育成—

研究仮説

「考えたい！やってみたい！」という意欲をもち、自分の考えを根拠・理由を明確にして伝え合い、わかるようになった充実感や満足感を一人一人に感じる授業ができれば、次への学びの意欲をもって粘り強く学び合える子供たちが育成できるであろう。

<研究の重点>

重点1 一人ひとりに考えをもたせる手立て

重点2 伝え合わせるための手立て

学習規律

基礎基本

学びの集団づくり

学びの土台

(4) めざす子ども像

主体的に取り組む子

わかった！できた！と思える子

3 研究の重点

重点1 意欲的に学ぶための工夫

<具体的な手立て>

☆学習問題の工夫

- 既習を活用する
- 児童に疑問をもたせる

☆課題の工夫

- 本時の授業の流れ、ゴールを示す
- 既習揭示（学習計画・既習内容・学習用語）の活用
- 実物・具体物・ICTの活用
- 最初に全体で考えの具体例を挙げる

☆個人思考の場の設定

- 語彙表・国語辞典・類義語辞典の活用
- ワークシートや全文シート、付箋紙の活用
- 根拠に線、理由を入れる
- 色分けする
- 図・表・学習用語を使う

☆きめ細かな個別支援

- 机間指導
- ヒントの提示
- 考える視点を与える

重点2 学びを実感するための工夫

<具体的な手立て>

☆交流の工夫

- 必要感を引き出す働きかけ
- 目的を明確にした交流（考えをもつ・増やす・くわしくする など）をもたせる
→交流後、めあてが達成できたか振り返る
- 目的に応じた意図的グループ編成（同じ考え・違う考え、同じ場面・違う場面同士 など）
- ワークシートやまなボードの活用
- 根拠と理由を明確にした話し方
- キャッチボール言葉の活用
- 具体的な質問
- 児童の発言の価値づけ

☆構造的板書の工夫

- 対比・分類・関係・キーワードなどの可視化
- 色の活用

☆深めの発問・問い返しの吟味

- 事前に複数想定し、授業で働きかける
（「…と…を比べてどう思った？」「つまり？」「本当にそうかな？」「…と何が違うかな？」
「…の場合はどう？」「いくつにまとめられる？」など）の意識

☆学びを自覚する

- 自分の言葉で・条件をつけてまとめる
- ふりかえりの書き方の活用

4 学びの土台

(1) 学習規律（生徒指導部と連携）

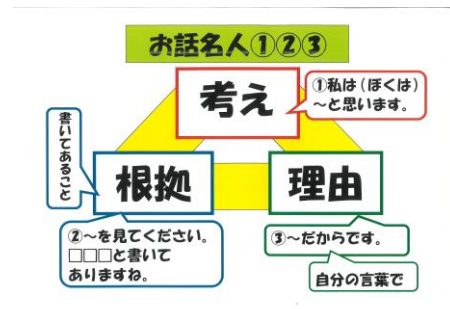
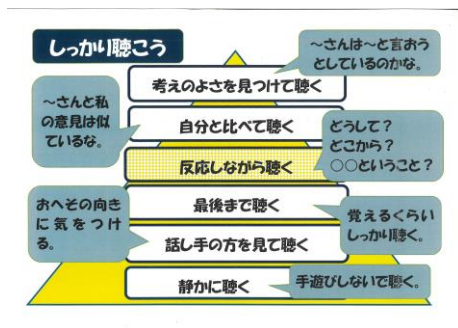
- チャイムで授業をスタートする。
- 授業の初めと終わりのあいさつをしっかりとる。
- 学習時の姿勢を保つ。
- 学習に集中できる学習用具を使用する。
- 学習の準備をしてから休憩する。

(2) 基礎基本

- さわやかタイム（新聞ワーク・補充プリント など）の活用
- 補充学習（休み時間・帰りの会）の活用
- 学年×10分の家庭学習時間の定着
- 直しの徹底
- ノートの書き方指導

(3) 学びの集団づくり

- 聴き方・話し方の指導



- 安心して言える学級づくり

- 生徒指導の三機能を生かす